



発行日/2023年4月20日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

Mail:mimi@sakai-kfp.info

みみより

66

ごあいさつ

楯 希代見

新しい年度になりました。いつもより少し早い桜の開花。入園・入学する子どもたちの声。春は心弾む季節です。3月にはマスクの着用が個人の判断となり、新型コロナとのつきあい方も変化してきました。集うこと、語り合うことを少しずつ取り戻していきたいものです。



この3年間、聞こえない・聞こえにくい方に情報を届けるために様々な取り組みをしてきました。ビデオ通話を活用しての遠隔通訳、オンラインでの行事開催のほか、スマートフォンなどで情報にアクセスできるよう、手話と字幕入りの動画製作も進めました。感染症がまん延する中、「少しでも多くの、わかりやすい情報を届けたい」という思いで取り組んできたことは、今後も事業に活かされると思っています。

今、様々な分野で技術革新が進んでいます。ここには障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法なども関わっています。聞こえない・聞こえにくい方の生活を豊かにするための企業の取り組みと福祉をつなぐこともセンターの大切な役割です。地域との協働、市民への周知など、取り組むべき課題は多くあります。職員一同、今年度も頑張っていきますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

退職のごあいさつ

阿部 智美

桜の開花・満開予測が年ごとに早くなっているように思いますが、私の最後の出勤となる3月中旬ではまだまだ早かったみたいです。上野芝駅からの徒歩での通勤で見られる古墳のお堀端の桜の並木は、私の花見スポットでした。



このたび、11年間と長く在籍させていただいたセンターを、一身上の事情により非常に残念ですが、退職させていただくこととなりました。この間、私自身のライフステージでも出産や育児など経験いたしました。仕事で相談やおしゃべりさせていただくのに、さまざまなことを教えてくださるのはいつも聞こえにくい・聞こえない人、関係者のみなさまでした。退職するにあたって、最後にみなさまにきちんとご挨拶できなかったのが心残りです。しかし、視覚・聴覚障害者のネットワークはつながりがとても強く、今後もどこかでお会いすることがあると思います。私を見かけられましたら、ぜひ声をおかけください。本当に長い間ありがとうございました。

開催事業報告

《もじサロン（筆談会）》 3月16日は、緊急時の対応について話し合いました。もし、家族が倒れたらどうするか、緊急時の通報と要約筆記者派遣の仕組みなども学習しました。堺の消防局では、聞こえない・聞こえにくい方からの通報に備え、研修も行っています。センターが休館しているときは、救急隊や救急医療機関からの派遣依頼で要約筆記者が派遣されます。Net119だけでなくFAXでも通報ができるので、専用用紙に氏名や住所を書いて備えておきましょう、と話し合いました。



《聞こえのセミナー》

2月25日(土)、滋賀県の日野記念病院耳鼻咽喉科、安岡 公美子先生をお迎えして人工内耳のお話をさせていただきました。安岡先生ご自身も両耳に人工内耳を装着しておられます。今回は、医師であるとともに当事者としての体験を伺える貴重な場となりました。



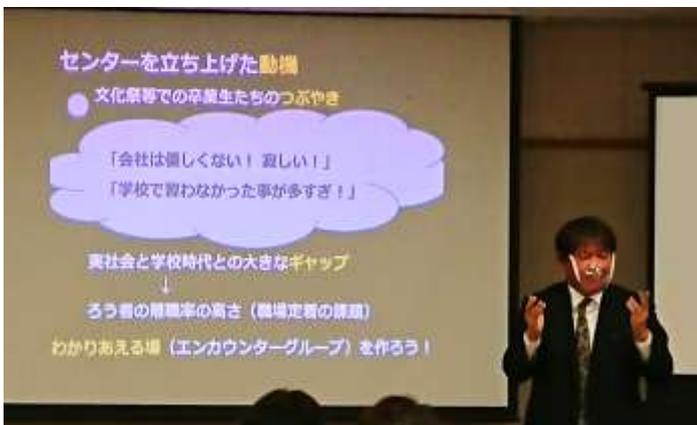
まず、気導聴力と骨導聴力の違いや聴力図の見方、伝音難聴と感音難聴の違いについて、丁寧な説明がありました。また、多くの方が感じておられる「音は聞こえてもことばが聞き取れない」状態の時には、「大きすぎない声で、ゆっくり、はっきり話してもらおう」と、具体的な対応方法も示されました。

難聴の原因により、治療方法は様々です。補聴器も進化しており、雑音抑制機能によって人の声を聞き取りやすくしたり、無線通信でスマートフォンやテレビの音を直接補聴器に入れたりすることもできるそうです。それでも、高度・重度の感音難聴の場合はことばの聞き取りが難しいことが多く、人工内耳はそのような方が対象の手術です。頭の中に埋め込む「インプラント」と、体外に付ける「スピーチプロセッサ」で構成されています。日本では1985年に行われた最初の手術から38年が経過し、現在では年間1,000件以上の手術が行われています。先生は2003年に右耳の人工内耳の手術を受け、今まで聞こえなかった音の存在に気づいたものの「ことばの聞き取り」は難しかったそうです。何度か「スピーチプロセッサ」を変え、少しずつことばがクリアになっていく様子を視覚的に伝えてくださり、人工内耳での聞こえをイメージすることができました。

安岡先生は、幼少期に重度の感音難聴であるとの診断を受けました。ご両親は「将来は社会の中で生きていかなければならないのだから」と、補聴器に加え、読唇、口話、筆談と様々な方法でコミュニケーションをとってくださったそうです。読み聞かせや読書が語いを増やし、何にでもチャレンジさせてもらったことが、その後の自分の成長に大きな影響を与えた、と語ってくださいました。中でも、ご両親から受けた「セルフ・アドボカシー」の教育は今に至るまで役立っているとのこと、自らに必要な支援を自ら周囲の人に説明し、理解を得る力の大切さを改めて感じました。

定員を超える56名のお申し込みをいただき、聞こえやコミュニケーションで悩んでいる方の声も多く寄せられました。これからも、様々な情報をお届けできるよう努めます。

《聞こえない＆聞こえにくい子どもの保護者向け学習会》



3月4日(土)の保護者学習会は「コミュニケーションの力、人とかかわる力を育てる」と題し、大阪ろう就労支援センターのセンター長、前田 浩さんに講演していただきました。前田さんは、聴覚支援学校の教員だったご経験もあり、子どもたちの教育に携わった立場、そして今の就労支援の立場からお話してくださいました。

障害者雇用率の設定、合理的配慮の義務化など、就労支援の制度は進んできましたが、聴覚障害者の離職率は他の身体障害者と比べて高いというデータがあります。採用する側にとっては「筆談すれば大丈夫」という感覚もあるのでしょうか。就職自体は比較的スムーズに進むのですが、職場での人間関係がうまくいかず、ご本人がストレスを抱えてしまったり、会社が困ってしまったりすることが多いです。そして、職場の人間関係は、実は仕事の話だけで

作られるものではなく、日常のとりとめのない話によって構築されていくものです。けれど、それらの多くは筆談で伝えられることがなく、聴覚障害者は疎外感を持ってしまいます。また、学校では習わない慣習も、聞こえる人は自然に耳にして覚えていきますが、聴覚障害者にはそれができません。前田さんは「上座・下座」を例に、「早く着いたから、ほかの人が座りやすいように奥に座ろう」と判断した新卒の聴覚障害者のエピソードを紹介してくださいました。

職場として合理的配慮をする用意はあっても、本人自身が自分に必要な配慮を説明することができず、配慮が不十分になってしまうことがあります。説明する力、交渉する力、一緒に作っていく力を育む手法として、「コンセンサスゲーム」を紹介していただき、参加者でやってみました。自分の意見は出しつつも違う価値観を認め、互いにまとめていくことが目的で、出された課題は「無人島に何を持っていくか?」でした。いろいろな意見が出る中で、みんなで行うのか。家庭でもできるゲームなので、ぜひ、みなさんもやってみてください。

最後に、各地で仕事に取り組む聴覚障害者の様子を動画で紹介していただきました。参加してくれた高校生にとっては、おとなの働く姿に触れる貴重な経験になったようです。保護者からは、やはり「自分のことを説明する力」について考えさせられた、という感想が多く寄せられました。

失敗しないように。自尊感情を傷つけないように。おとなはそう思って先回りしがちです。けれども、子どもたちは失敗経験を重ねて成長していきます。失敗したことを叱らず、要因を確かめ、一緒に手立てを考えて行くことが大切だと感じた講演でした。



《みみサロン》



2022年度最後の「みみサロン」は、3月18日(土)の午後2時より開催し、39名に参加していただきました。今回は、講師と参加者も一緒に学ぼう、楽しもうと参加型の企画を立てました。聴覚障害者のための放送「目で聴くテレビ」キャスターの村上 信次氏を講師にお招きし、「しんじのなるほど・ザ・ワールド」と題して講演していただきました。

講演は、ご自身の「目で聴くテレビ」の裏話からスタート。指文字の間違い探しゲームでは、手の向きが違う指文字を見て正解を考えるのに四苦八苦。堺市の歴史クイズでは、「みんな堺市に住んでいるのに何で知らんの?」と指摘され、参加者は爆笑。また、しんじの独り芝居時は、その表現力に皆、目が釘付けになるなど、会場は大変盛り上がりました。

【参加者の声】

最初から最後まで興味深く面白かった。アイスブレイクのクイズは、また、やってみたいと思いました。手話もゆっくりでわかりやすかった。

【参加者の声】

内容盛りだくさんで楽しかったです。クイズあり、「目で聴くテレビ」のお仕事の話あり、手話語りあり、どれも楽しめました。あっという間の2時間でした。

ご登録ください：公式LINE・ビデオ通話

公式LINEでは行事のご案内、手話通訳・要約筆記を配置している講演会の情報などをお知らせしています。また、電話でセンターへの連絡が難しい方は、ぜひ、ビデオ通話をご利用ください。筆談も対応しますので、お気軽にどうぞ。



公式LINE

スカイフォン
アプリダウンロード
→93463426へ



手話奉仕員・通訳者養成講座

修了おめでとうございます

2022年度の講座はすべて終了しました。無事、修了されたみなさま、最後まで手話を続けてくださり、ありがとうございます。今後も永く手話を続けてくださることを願っています。2023年度の市民向け手話講座も受講者募集中です！

要約筆記者養成講座

認定試験の結果は・・・

2月に実施された全国統一要約筆記者認定試験の結果が届きました。合格に向け、努力されたみなさま、本当にお疲れさまでした。合格だった方も、残念ながら不合格だった方も、今後も難聴の方とともに歩いていきましょう。

センターの行事

※現在、すべての行事は事前申込制になっています。

※新型コロナウイルス感染症等の感染状況により、オンライン開催、または中止になることがあります。

5月11日(木) 14:00~16:00

もじサロン(筆談会)

5月12日(金) 13:30~16:30

補聴器相談(おひとり50分)

5月20日(土) 14:00~16:00

みみサロン

「字幕つき映画体験会」

5月27日(土) 14:00~16:00

聞こえのセミナー

「音がみえるアプリ Sound Display」

6月3日(土) 14:00~16:00

もじサロン

「わいわいおしゃべり会」

4月15日(土)に「春のプラザ祭り」を開催しました。絵本の読みきかせ、ミニ手話教室、筆談体験にご協力くださった各団体のみなさま、ありがとうございました。

ビデオライブラリーのおすすめ

「ONE PIECE THE MOVIE カラクリ城のメカ巨兵」

ルフィたちは、難破した海賊船から宝箱を手に入れますが、宝箱の中に入っていたのは老婆でした。

老婆は自分の島へ送り届けてくれたら、島に伝わる財宝をあげると言います。ルフィたちは、財宝を手に入れるため、老婆の言う島へ向かいました。



「それいけ！アンパンマンコキンちゃんとパン工場」

ドキンちゃんとけんかしたコキンちゃんは、パン工場にお泊りすることになりました。つぎの日、コキンちゃんは、おねえちゃんに会いたくてさみしそうなメロンパンナのために、クリームパンダといっしょに、ロールパンナを探しにでかけます。

頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

- ・盲ろう者手引き研修 3/11 からオンライン配信
- ・登録継続者説明会 3/25

- ・新規登録者説明会 4/22
- ・新規登録者合同研修会 5/13・27
- ・要約筆記者ステップアップ研修 6/10~

事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
2月	派遣数	145件	11件	9件	7件	28人	49本
	派遣人数	152人	24人	12人	24人	新規登録者：0人	
3月	派遣数	197件	12件	11件	6件	24人	51本
	派遣人数	206人	20人	24人	19人	新規登録者：2人	

ご協力
ありがとうございました

